

令和7年8月8日
釧路開発建設部

第39回釧路開発建設部総合評価審査委員会の審議概要について

令和7年7月10日（木）に開催しました第39回釧路開発建設部総合評価審査委員会の審議概要を、別紙のとおりお知らせいたします。

【問合せ先】

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部

技術管理課 課長 樋口 飛鳥 電話：0154-24-7147

技術管理課 課長補佐 佐藤 裕樹 電話：0154-24-7174

釧路開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/>



第 3 9 回 釧路開発建設部総合評価審査委員会審議概要

開催日・場所	令和 7 年 7 月 1 0 日 (木) 釧路地方合同庁舎 5 階 共用会議室
委員	委員長 草苺 敏夫 (独立行政法人国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校名誉教授) (公益財団法人釧路根室圏産業技術振興センター専務理事) 岸 徳光 (国立大学法人室蘭工業大学大学院特任教授) 宮森 保紀 (国立大学法人北海道大学大学院工学研究院教授) 宗岡 寿美 (国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学教授) 山本 泰司 (学校法人北海道科学大学教授)
議事	1 報告 (1) 「釧路開発建設部 総合評価落札方式及びプロポーザル方式の実施状況」 2 審議 (1) 工事における総合評価落札方式の実施結果について ①一般国道 4 4 号 厚岸町 別寒辺牛川橋 P 1 橋脚工事 ②十勝港航路・泊地浚渫工事 (2) 業務における総合評価落札方式の実施結果について ①釧路開発建設部管内 道路交通安全対策検討業務 ②阿寒地区 区画整理第 3 1 工区設計等業務
委員からの意見・質問、それに対する回答等	
意見・質問	回 答
【1 報告】 (1) 総合評価落札方式及びプロポーザル方式の実施状況について ・業務における方式別発注件数で、一般競争入札(総合評価) [標準型] の平均参加者数が 1.0 と少ない理由は何か。 【2 審議】 (1) 工事における総合評価落札方式の実施結果について (抽出された 2 件の工事について、概要説明及び審議を行った。) ① 一般国道 4 4 号 厚岸町 別寒辺牛川橋 P 1 橋脚工事「一般競争入札・施工能力評価型 I 型」 ・一般競争入札参加資格審査一覧表の評価項目は、工事内容等によって変わるものなのか。 ・一括審査①の別寒辺牛川橋 P 3 橋脚工事と予定価格の差は何か。 ・当該工事の留意事項等において、「一般的な内容なので評価しない」と評価している項目について、評価の考え方を教えて欲しい。	・一般競争入札(総合評価) [標準型] は、技術提案を求める発注方式で、比較的難易度の高い業務であることから、参加者数が少ないと推測する。 (以下、応札者の提案又はその評価に係わる内容は技術提案に関する機密保持の観点から記載しない。) ・工種や工事内容によって評価する項目が変わる。 ・コンクリート量の違いによるもの。 ・評価の考え方について説明し了解を得た。

委員からの意見・質問、それに対する回答等

意見・質問	回 答
<p>② 十勝港航路・泊地浚渫工事 「一般競争入札・施工能力評価型Ⅰ型」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該工事での留意事項等において評価されなかった提案を、次の入札においても同じ提案が出て来ることは無いのか。 ・本工事は、施工計画の各項目に対して2つ提案を評価しているのに対し、先程の別寒辺牛川橋P1橋脚工事では1つ提案を評価しているのは何故か。 ・入札者（2社）の入札価格がほぼ同じ金額で、落札率が91%と低い率となっている理由は何か。 ・一次下請けとしての同種工事等の施工実績において、自社保有又は共同保有している主作業船を「グラブ浚渫船」に限定している理由は何か。 ・本工事では浚渫土を沖に投入するとのことだが、後々処分する予定はあるのか。 <p>(2)業務における総合評価落札方式、プロポーザル方式の実施結果について (抽出された2件の業務について、概要説明及び審議を行った。)</p> <p>① 釧路開発建設部管内 道路交通安全対策検討業務 「簡易プロポーザル方式に準じた手続（拡大型）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者を5社に限定しない「拡大型」を選定した理由は何か。 ・本業務を進める上で、関係機関との関わりについて教えて欲しい。 ・事故危険区間箇所図は、誰が作成したものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開札後に評価点を公表しており、応札者はその点数からどこが悪かったかを分析して、提案内容の改善を行っていると思われる。 ・別寒辺牛川橋P1橋脚工事は、「施工計画重視型」の試行を行っているため、本工事と施工計画の評価手法が異なる。 ・難易度の高い工事では無いため、2社とも受注意欲が高く調査基準価格ギリギリを狙って入札したものと推測する。 ・本工事では、浚渫土を沖に投入する作業があるため、浚渫方法としてグラブ浚渫に限られることから、「グラブ浚渫船」に限定している。 ・漁協からの要望により、漁場造成の目的で浚渫土を材料として沖に投入しているため、今後浚渫土を処分する必要は無い。 <p>(以下、応札者の提案又はその評価に係わる内容は技術提案に関する機密保持の観点から記載しない。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本業務は毎年発注しており、昨年度1社しか応募がなかったため、応募する社が増えることを期待して「拡大型」を選定している。 ・本業務での検討結果を基に、今後警察や関係市町村と協議を進めることとなる。 ・北海道開発局で作成している。

委員からの意見・質問、それに対する回答等

意見・質問

回答

- ② 阿寒地区 区画整理第31工区設計等業務
「簡易公募型競争入札方式に準じた手続き（総合評価（簡易型・簡素）」）」
- ・区画整理面積56haの関係農家数を教えて欲しい。
 - ・技術提案書において、「特定テーマ」を求めない業務なのか。

【上記、工事・業務について適切な評価と認める。】

・関係農家数は、6戸です。

・本業務は、総合評価の簡易型であるため、「特定テーマ」を求めない発注方式である。

以上